

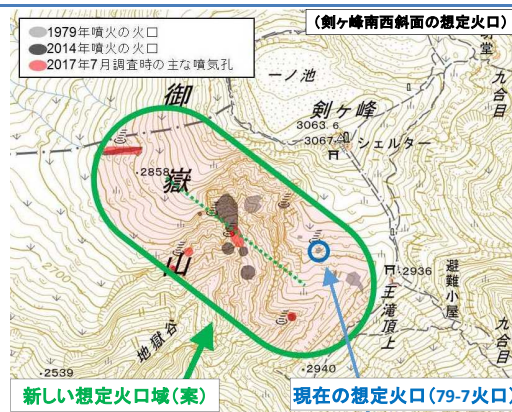
御嶽山における火山防災への取組について

過去の災害

- 1979年(昭和54年) 水蒸気爆発
- 1984年(昭和59年) 御嶽崩れ
- 2014年(平成26年) 御嶽山噴火
平成26年9月27日11時52分頃、
御嶽山が噴火し、戦後最悪(死者58名、
行方不明者5名)の被害が発生



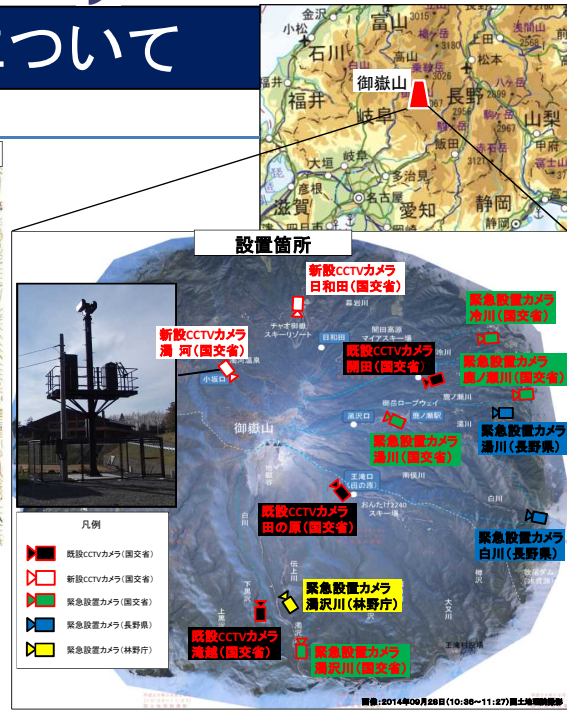
(平成26年9月27日 撮影)



新しい想定火口域(案) 現在の想定火口(79-7火口)

第10回御嶽山火山防災協議会「剣ヶ峰南西斜面における想定火口域の変更について」より引用
(気象庁地震火山部火山監視課 火山監視・警報センター)

気象庁では今後、剣ヶ峰南西斜面で再び火山活動が高まった場合、79-7火口だけでなく、2014年の噴火で新たに形成された噴火口・噴気孔も含めた領域から噴火が発生する可能性を想定。
上図のように幅500m、長さ1,100mの領域を設定



近年の取り組み



『御嶽山火山噴火緊急減災対策砂防計画』を改訂

御嶽山火山噴火緊急減災対策砂防計画は御嶽山の噴火に伴って起きる土砂移動(土砂災害)による被害をできる限り軽減(減災)することを目的として、平成23年に策定運用してきたが、平成26年の噴火後に実施した緊急減災対策を踏まえて抽出・整理した課題への対応策や、計画の実効性向上に向けた取り組みの記載など、砂防計画全体を見直し令和2年の2月に改訂した。

噴火警戒レベル1→2へ引き上げ時の対応

R4年2月に御嶽山噴火警戒レベルの引き上げが行われた際には、関係機関と迅速に連絡を取り合い、密な連携を図った。

日付	内容・対応等
R4年2月23日 16時35分	噴火警戒レベルを1(活火山であることに留意)から2(火口周辺規制)に引き上げ
R4年2月23日 (同日)	長野県木曽建設事務所、木曽町役場、王滝村へ状況・連絡体制を確認
R4年2月24日	長野県砂防課、岐阜県砂防課へ状況確認
R4年2月25日	ヘリ調査実施
R4年6月23日 14時00分	噴火警戒レベルを2(火口周辺規制)から1(活火山であることに留意)に引き下げ



災害対策用ヘリコプター「まんなか号」

コンクリートブロックの備蓄

緊急時に使用するコンクリートブロック等の資材の備蓄を進めている。



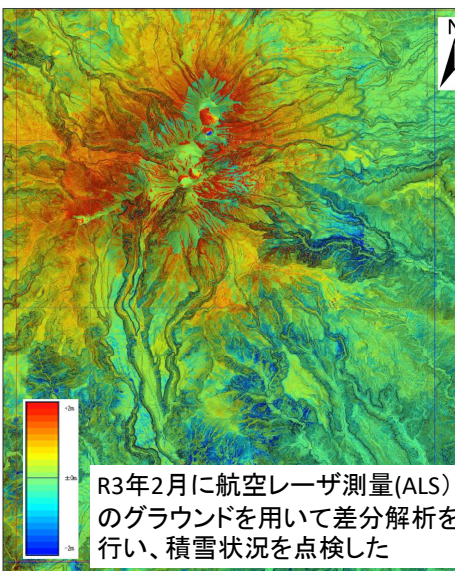
長野県上松町滑川での資材備蓄状況



H26御嶽山噴火
二次災害に備えて
コンクリート積壇堤を設置

コンクリートブロック積壇砂防堤(鹿ノ瀬川、国土交通省多治見砂防国道事務所)

融雪型火山泥流のシミュレーションによるハザードマップの作成



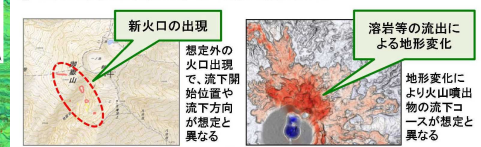
R3年2月に航空レーザ測量(ALS)のグラウンドを用いて差分解析を行い、積雪状況を点検した

図 4-13 積雪状況の差分解析(参考図)

リアルタイムアナリシス型(逐次計算方式)

随時新たな情報に基づき数値シミュレーション計算を行いハザードマップを作成するシステム

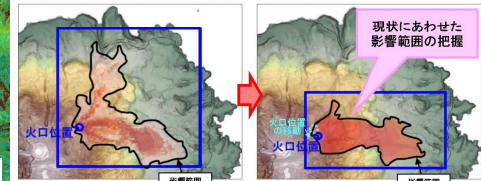
① 想定と異なる火口位置や地形変化の発生



② 新たなシミュレーション条件の設定

火口位置 噴火規模 積雪状況 地形変化 等

③ 再計算結果(火口位置の移動のみを想定した場合)



H30年より多治見砂防国道事務所においても御嶽山用のリアルタイムアナリシス型のハザードマップを作成することのできる体制を整備

関係機関との連携や地域住民への防災啓発・情報発信

平時より御嶽山火山防災協議会と連携し、噴火を想定した演習を実施。

また、子どもや地域住民に対する防災教室やHPで情報発信を行い、防災啓発を図っている。



令和3年11月27日
岐阜県高山市朝日町にて地域住民を対象に防災講演会を開催



『御嶽山火山防災だより』による情報発信